

## ◎三好市ゆかりの人物

おがさわらながきよ おうほう にんじ  
【小笠原長清】応保2年（1162）～ 仁治3年（1242年）

平安時代末期から鎌倉時代前期の甲斐国の武将。甲斐源氏の一族である加賀美遠光か が み と お み つの次男。信濃守護しなの家小笠原氏きゅうば、弓馬術礼法小笠原流の祖。弓馬の術に優れ、武田信光・海野幸氏・望月重隆たけだ のぶみつ うんの ゆきうじもちづきしげたかとならんで「弓馬四天王」と称された。承久3年（1221）に阿波国守護に補任された。

おおにしよりたけ えいししょう てんししょう  
【大西頼武】永正16年（1519）～ 天正5年（1577）

戦国時代の阿波国の国人領主。阿波白地城主。最初は細川氏に属し、後に三好長慶の妹を妻として迎え、阿波西部から讃岐南部、伊予東部、土佐北部で最大勢力を誇った。三好大橋南詰めに「頼武さん」と言われる小さな祠がある。

かんかんし ほうれき ぶんせい  
【閑々子】宝歴2年（1752）～文政10年（1827）

三好郡箸蔵村はしくら いけだ（現在の池田町）で生まれる。幼い時より神童と呼ばれ仏門に入り、徳島富田の観音寺の僧快観に師事する。博学で詩・書に優れ、画では海老、蟹、亀、蛙などを特に好んで独自の世界観をもって描いており、超俗の風格を漂わせている。また、書に関しては、河州葛城山の慈雲律師の下で修業した際に、「慈雲ばり」と呼ばれるほどの多大な影響を受けた。

うちだ やはち ぶんきゅう  
【内田彌八】文久元年（1861）～明治24年（1891）

西井川村けいおうぎじゅく（現在の井川町）に生まれる。慶應義塾で英学を学び、翻訳・著述・出版に偉才を発揮した。在学中に『義経再興記』を出版し、当時のベストセラーとなった。死後、故郷に碑が建立され、恩師・福沢諭吉ふくざわ ゆきちの追悼文「其人そのひとの為に悲しむのみならず、国の為に之を惜む 惆悵の情に堪えざる者なり 福沢諭吉涙を揮ふいて記す」と刻まれている。



はやしふみこ

【林 芙美子】明治36年（1903）～ 昭和26年（1951）

日本の小説家。『扁舟紀行』を執筆し、この扁舟紀行の中に池田町の白地温泉こにしにある小西旅館とその付近の風景が気に入ったようで、その滞在期間の様子が書かれている。現在でも小西旅館では林芙美子の資料を大切に保管している。また、東京都新宿区では生前住んでいた家を改築・整備し、記念館として公開している。



たにくちくんび

【谷口 董美】明治42年（1909）～昭和39年（1964）

版画家。明治42年1月、辻町（現在の井川町）に生まれる。弟は山下菊二。1939年東京に出て「一木会」会員になり、恩地孝四郎の指導を受ける。終戦を境に徳島に戻り、1948年に四国中央美術協会や制作新樹社に参加するなどの活動をした。腕山かいなやまスキー場を題材にした作品『腕山スロープ』は多色木版である。

ふじまさはる

【富士正晴】大正2年（1913）～昭和62年（1987）

三好郡山城谷村（現在の山城町）に生まれる。1968年に『桂春団治』で毎日出版文化賞、大阪芸術賞、関西大賞詩仙賞をそれぞれ受賞。「著述の人」だったが座談も巧みで、本の装丁も手がけるなどし、奔放自在、ユーモラスな彩墨画や木版画に書も巧みだった。平成15年に生誕90年を記念して旧大野中学校に「富士正晴記念室」を開設し、生誕100年記念時には山城町公民館内に移転・開設した。



やましたきくじ

【山下菊二】大正8年（1919）～ 昭和61年（1986）

画家。大正8年、董美の弟として辻町（現在の井川町）に生まれる。昭和52年の三好文化祭では、山下菊二展が開かれた。権力や差別、天皇制や庶民意識の問題と向かい合い、渾沌たる現実を超現実主義の方法で戯画化したり、探訪絵画を創案して事件を紙芝居化するなど、その絵画は戦後史の証言ともなる重要なものである。

## 4. 文化財等の分布状況

### (1) 指定等文化財

本市には、表1で示す通り平成30年(2018)11月時点で合計117件(国指定15件、県指定33件、市指定69件)の文化財が指定されている。また、43件が国登録文化財として登録されている。

このうち主な分布状況は、図1(P39)で示す通り、市街地にタバコ産業や酒造業等で栄えた町並みを山頂から見守ってきた重要文化財(建造物)「<sup>はしくらし</sup>箸蔵寺本殿」他5棟があり、町並みには登録有形文化財が多く集中している。西部の山地には、重要有形民俗文化財「<sup>かずらぼし</sup>祖谷の蔓橋」や重要伝統的建造物群保存地区「三好市東祖谷山村落合」がある。また山村の上層古民家として重要文化財建造物「木村家」住宅をはじめ、お屋敷と呼ばれる県指定文化財(建造物)「<sup>あさ</sup>阿佐家住宅」、「<sup>とくぜん</sup>徳善家住宅」があるなど古民家が点在する。

種類		国		県	市
		指定・選定	登録	指定	指定
有形文化財	建造物	3	43	4	3
	絵画	2			
	彫刻	3		7	14
	工芸品			8	9
	書跡・典籍			1	3
	考古資料			1	
	歴史資料				1
民俗文化財	有形の民俗文化財	1			6
	無形の民俗文化財	1		2	9
記念物	遺跡	1			10
	名勝地	1		1	
	動物・植物・地質鉱物	2		8	14
伝統的建造物群		1			
文化財の保存技術				1	
計		15	43	33	69

## (2) 指定等文化財の分布状

### ◎国指定等文化財

本市には、表1（【P33】）で示す通り、文化財保護法に基づき国の指定、選定を受けている文化財が15件ある。内訳は重要文化財（建造物）が3件（8棟）、重要文化財（絵画）が2件、重要文化財（彫刻）が3件、重要伝統的建造物群保存地区1地区、重要有形民俗文化財1件、重要無形民俗文化財1件、天然記念物2件である。（平成30年11月現在）

#### ■重要文化財（建造物）「木村家住宅」

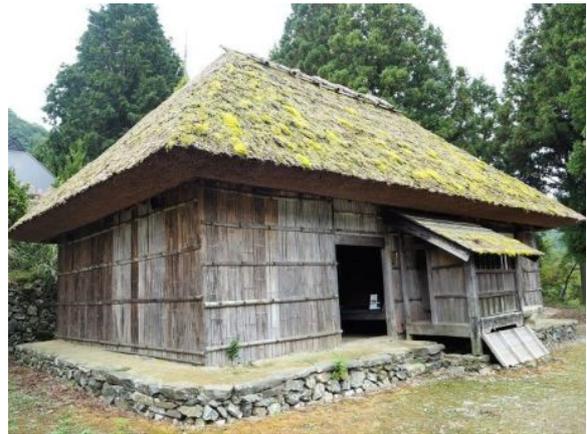
その中の重要文化財「木村家住宅」は、天保年間に東祖谷今井いまいから同釣井つるいに移築された民家であり、移築年は棟札より元禄12年（1699）と明らかである。寄棟造り、茅葺き、かつ柱や貫で固める構造（ヌキダチ）が用いられており、これは祖谷地域で18世紀以前の民家に多くみられる形式であり、当地域では、建築年代が判明する最も古い民家である。



#### ■重要文化財（建造物）「小采家住宅」

同じく祖谷に残る重要文化財「小采家住宅」は、建築工法から天保年間（1830～44）の建築と推定される。寄棟造り、茅葺きで、上部を窄めた柱（コキバシラ）が横架材を貫通し、さらに上部の横架材を受ける構法（オトシコミ）が用

いられている。この工法は、祖谷地域で19世紀以降に多くみられるが、間取りが「一間取り」と小規模である建築様式は、残されている民家では貴重である。昭和51年に重要文化財に指定された後、旧東祖谷山村の所有になり、昭和58年、東祖谷栗くり枝渡しどから同菅生すげおいに移築された。



#### ■重要文化財（建造物）「箸蔵寺本殿」他5棟

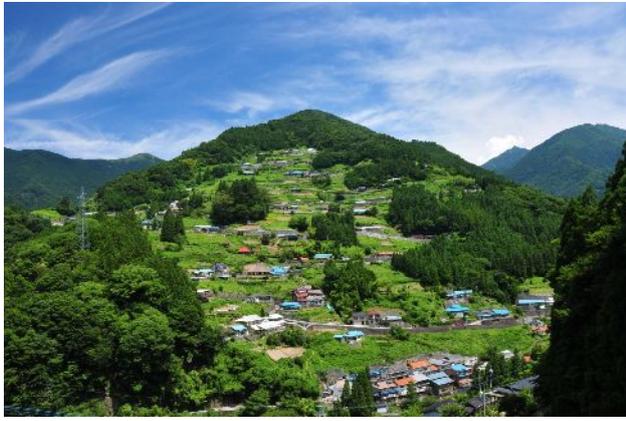
タバコ産業で栄えた池田地区にある重要文化財「箸蔵寺」は、天長5年（828）弘法大師の開創と伝えられる古刹である。池田町の箸蔵山がらんの南麓に開かれた広大な境内には30余の伽藍が配され、うち、文政9年（1826）の火災後江戸時代末期の建築とされる本殿、護摩堂、方丈、薬師堂、鐘楼堂、天神社本堂が重要文化財に指定されている。



■重要伝統的建造物群保存地区

「三好市東祖谷山村落合」

重要伝統的建造物群保存地区では「三好市東祖谷山村落合」がある。落合川と祖谷川が合流する地点から山の南斜面に沿って広がる集落である。急傾斜地を切り盛りして石積みで土留めをしながら宅地や耕地を開き、屋敷地は等高線に沿った細長い形状となるため、主屋の両側に隠居屋、納屋等の付属屋を配する一列型の建物配置が多く見られる。また、主屋は一間取りまたは中ネマ三間取りと呼ばれる横並びの平面構成を基本とする。これらの石積みや伝統的な建築が鎮守の森や小道、祠等の石造物などと共に、独特の景観を形成している。



じんたい

■重要無形民俗文化財「西祖谷の神代踊」

重要無形民俗文化財では「西祖谷の神代踊」があり、祖谷地方西祖谷山村に伝わる神踊で、美しい笠をかぶり太鼓を叩いて踊るところから笠踊り、太鼓踊りとも言われる。

すがわらのみちざね

起源は菅原道真が讃岐の守であったとき、干ばつ時に雨乞いを祈願し、踊ったのが始まりと言われ、毎年、善徳の天満宮で、豊作と無病息災を祈念し踊りが奉納される。



■重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」

重要有形民俗文化財「祖谷の蔓橋」は、吉野川支流の祖谷川に架けられている。蔓橋は交通手段が発達する以前、谷川の兩岸地域の往來を確保するために架けられた、祖谷地域になくてはならない重要な交通路の一つであった。しかし、急速な交通手段の変化により、その数は激減し、大正13年（1924）に消失した。後に蔓橋が復活したのは、昭和3年（1928）で、それ以来、3年毎に橋の架け替えが行われている。今もなお地域の人々の手によって、その技術が伝承されている。



みうね てんくつか

■天然記念物「三嶺、天狗塚のミヤマクマザサ及びコメツツジ群落」

海拔1,893mの三嶺、海拔1,812mの天狗塚からなり、ともに高知県香美市と徳島県三好市東祖谷の境にそびえ四国で最も自然のままの姿を残している山であると言われている。

両山頂部及び岩場が混じる稜線一帯はミヤマクマザサとコメツツジの広大な群生地となり岩場やその周辺ではイブキトラノオ、シコクフウロ等の草本類が生育している。



**天然記念物及び名勝「大歩危小歩危」**

天然記念物及び名勝では、吉野川上流に「大歩危小歩危」があり、川底と川岸には、関東から九州まで日本列島を縦断して分布する三波川変成岩が見られる。徳島では「阿波の青石」と呼ばれている。

三波川変成岩とは、中生代ジュラ紀から白亜紀にかけての海洋プレートの沈み込みにより大陸側に付加され、地下深くに押し込まれ、高い圧力のもとで再結晶した岩である。



**史跡「阿波遍路道（雲辺寺道）」**

史跡では「阿波遍路道」があり、四国には四国霊場があり、霊場をつなぐ手段として遍路道が確立され、古くから全国の人々の信仰を集めてきた。人々の信仰が八十八箇所札所や霊場の整備、門前町等の発展を促し、そこで行き交う人々や地域の人々との間で他国の情報交換やお接待などの交流が行われ、四国の特色ある精神文化を育ててきた。三好市には、愛媛県境から六十六番札所「雲辺寺」へとつながる遍路道がある。



本市には、この他に重要文化財（美術工芸品）として指定されている絵画2幅、彫刻3軀及び登録有形文化財（建造物）に登録されている建造物が43棟存在する。

※参考資料表1（【P33】）



登録有形文化財「三野町役場」

◎県指定文化財

本市には、表1（【P33】）で示す通り、33件の徳島県指定文化財があり、その内訳は有形文化財21件、無形民俗文化財2件、記念物9件、選定保存技術1件である。（平成30年11月現在）

■県指定有形文化財（建造物）「阿佐家住宅」

阿佐家住宅は、棟札で建築年代が文久2年（1862）であり、元暦2年（1185）の屋島の合戦に敗れた平家の落人が住みつけた平家屋敷であると云われている。入母屋造りの茅葺き屋根で、間取りでは上座敷、下座敷を構えるなど全国でも珍しい建造物である。



■県指定有形文化財（建造物）「徳善家住宅」

徳善家住宅は、棟札で建築年代が慶応2年（1866）の建造物であり、南北朝時代の武将である楠木正成の家臣の屋敷であると云われ、阿佐家住宅と類似した特徴的な建築様式が見られる貴重な建造物である。



■県指定無形民俗文化財「山城の鉦踊」

無形民俗文化財では「山城の鉦踊」は約300年前から新仏の供養や集落の無事安泰を祈願するために踊られている念仏踊りで、山城町内の4地区（茂地、信正、寺野、粟山）で継承されている。

各地区によって氏神、阿弥陀堂等、奉納する場所が異なっている。構成や楽器、念仏に多少差異はあるが、基本的に楽器は、鉦、太鼓、ほら貝で、棒振り、削、長刀等の役者で構成され、各自花笠を被り、鉦、太鼓に合わせ厳かに奉納される。



◎市指定文化財

本市には、表1（【P33】）で示す通り、三好市指定文化財は、69件あり、そのうち有形文化財が30件、民俗文化財15件、記念物24件である。（平成30年11月現在）

■市指定有形文化財「真鍋家住宅」

有形文化財では、池田地域のタバコ産業で栄えた町並みにある「真鍋家住宅」がある。当家の建築年代は江戸末期と言われ、刻みタバコの製造で幕末から明治時代にかけて富を築いた商家である。

重層な瓦葺と、富の象徴である「うだつ」も見られる。また、建築材も屋久杉等が使われるほどの贅沢な建造物である。



■市指定有形民俗文化財「襖からくり」

有形民俗文化財では、祖谷地域に「襖からくり」がある。明治から昭和初期に西祖谷の村民の楽しみとして盛んに行われていた「襖からくり」は、人形浄瑠璃等の舞台背景が襖絵になっており、表裏に描かれた襖（6枚から8枚）が、芝居に応じて次々と転換する仕組みである。仕掛けには「引き分け」や「引き違い」、「田楽返し」等の技があり、見る者を魅了する。



## ■市指定天然記念物

## 「下瀬のイヤギボウシ群生地」

天然記念物では、祖谷地域にある「イヤギボウシ」、「オオヤマレンゲ」があり、イヤギボウシは徳島県絶滅危惧種に指定されている。

大正4年京都大学の教授が祖谷を訪れた際に、新種発見と言う事で、この名がついた。

見頃は6月から9月であり、ギボウシは江戸時代より観賞用として栽培されていた。日蔭でも育つことから、日蔭の庭「シェードガーデン」に欠かせない植物とも言われている。こうした生態から花言葉は「落ち着き」「沈静」とつけられている。



## ■市指定天然記念物

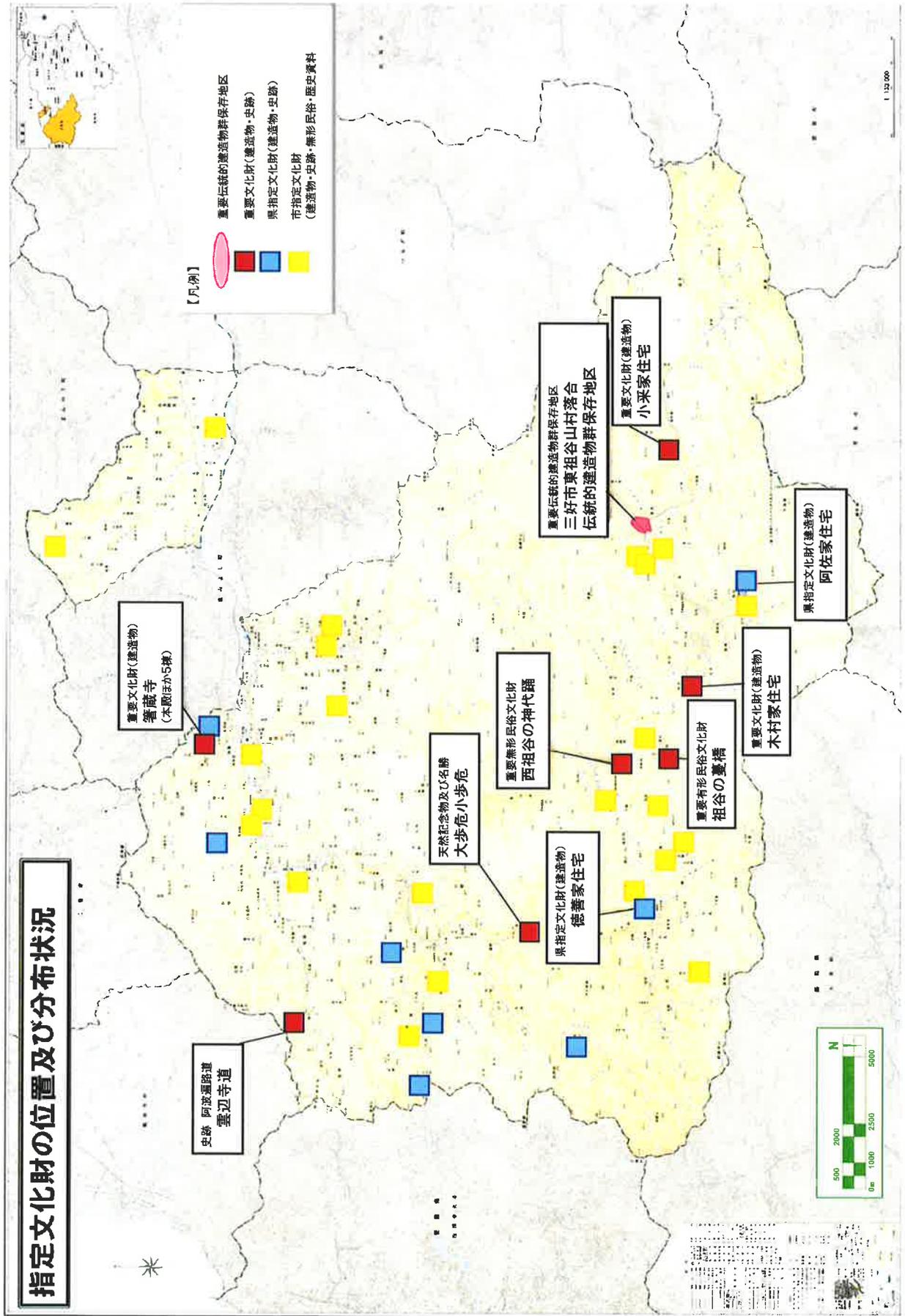
## 「高ノ瀬のオオヤマレンゲ群生地」

「オオヤマレンゲ」は、イヤギボウシと同様に徳島県絶滅危惧種に指定されている。

三好市と那賀町、高知県境に位置する標高1,740mの高ノ瀬山に自生している。

見頃は6月下旬から7月上旬ごろで、経10cmほどの芳香のある気品な白い花を咲かせる。このことから、花言葉は「天女の花」と呼ばれている。





■図1 指定文化財の位置及び分布状況

### (3) 未指定文化財の分布状況

#### ◎町家、町並み

本市には、図2（P42）で示す通り、歴史的価値の高い建造物が一定の密度で残り、町並みを形成している地域は、伊予街道沿いに位置する池田、井川地域である。

本市では、藩政時代からタバコの製造、販売が盛んで、池田や井川地域では全国の先進的な文化や富が蓄えられた。町並みには家々の隆盛を象徴するためや火災の延焼を防ぐために設けられた袖壁「うだつ」<sup>そでかべ</sup>を持つ商家が残り、往時の繁栄の様子を偲ばせている。



■池田町の伝統的な町並み



■井川町辻の伝統的な町並み



■袖壁「うだつ」

#### ◎喜多家住宅（土居）

祖谷地域には、喜多家住宅など、険阻な山を利用した屋敷が残る。喜多家は江戸時代に祖谷の政<sup>ま</sup>所<sup>ま</sup>を務めた家柄で、当家はその分家として土居と称された。



■「喜多家住宅」



■「喜多家住宅」の内部

### ◎近代化遺産

本市には、吉野川が横断しており昭和初期以降には、大川橋等多くの橋梁が架設された。

また、急流急峻な地形と豊富な水源を利用した水力発電所が明治以降建設されており橋梁や発電に係る遺産が多く分布する。

昭和10年(1935)には重要交通網として国鉄の土讃線が全線開通し、この沿線には、急峻な山肌を縫うようにトンネルや架道橋が多く存在している。



■「大川橋」昭和10年

### ◎石造物

本市の寺院、神社、集会所、路傍、遍路道等の各所には多くの石造物が残されている。距離ちやういしを示す丁石や石灯籠、記念碑、手洗い鉢、狛犬、地神塔等多種多様で平成8年の調査では3,948基の石造物が確認されている。



■遍路道沿いの石造物(丁石)

### ◎祭礼行事に関する文化財

本市の各寺院、神社で執り行われる祭礼では、五穀豊穡、家内安全等を祈願する「百手」や「踊り」、「獅子舞」、「浦安の舞」等地域固有の伝統行事や民俗芸能が奉納される。



■獅子太鼓



■百手



■浦安の舞

